

## ⑫ 実用新案公報 (Y 2) 昭59-23203

⑤ Int.Cl.<sup>3</sup>

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公告 昭和59年(1984) 7月11日

G 11 B 3/42  
B 32 B 33/008221-5D  
6122-4F

(全2頁)

1

2

## ⑮ ヘッドシエル

⑰ 実 願 昭53-129363

⑱ 出 願 昭53(1978) 9月19日

⑲ 公 開 昭55-49315

⑳ 昭55(1980) 3月31日

㉑ 考 案 者 川口 昭博

寝屋川市日新町2番1号 オンキ  
ヨー株式会社内㉒ 出 願 人 オンキヨー株式会社  
寝屋川市日新町2番1号

㉓ 代 理 人 弁理士 佐当 弥太郎

## ㉔ 実用新案登録請求の範囲

両面又は片面にポリウレタン系樹脂等の損失係  
数大なる塗膜層1を形成し、その上面に不飽和ポ  
リエステル系樹脂等のヤング率の高い塗膜層2の  
被膜を積層して形成した事の特徴とするヘッドシ  
エル。

## 考案の詳細な説明

本考案は振動を抑制したピックアップのヘッド  
シエルに関するものである。

従来、ヘッドシエルの材質として、アルミニウ  
ム等の軽金属やプラスチック等の合成樹脂材料  
が使われて来たが、ヘッドシエル本体の振動によ  
つて生ずる鳴きは音質を悪くするものである。従  
つて無共振ヘッドシエルが望まれるものであるが  
実際には不可能に近いものである。その為にヘッ  
ドシエル本体の裏面や表面にゴムシートを貼着し  
たり、合成樹脂を塗布して振動を抑制していた。  
しかしながらこれでは不十分であり、制振材とし  
て損失係数が0.1近くになるものはなかつた。従  
つて現在までヘッドシエル本体の鳴きを十分に抑  
えられないと云う欠点があつた。

本考案は上記の欠点を取除く為に考案されたも  
ので、図面に示す実施例について説明すれば、第  
1図、第2図に示すごとく、ヘッドシエル3の裏

面にポリウレタン系樹脂等の損失係数が大きい塗  
料を塗布して塗膜層1を形成し、乾燥させた後、  
その上面に不飽和ポリエステル系樹脂等のヤング  
率の高い塗料を塗布して硬化させ、塗膜層2の被  
膜を積層して形成せるヘッドシエルである。本考  
案の制振材と従来のゴムシート制振材の損失係数  
の測定結果を下記の表に示すものである。アルミ  
ニウム板のテストピースに各制振材を塗布し、温  
度20°C、湿度62%で振動減衰率即ち損失係数を  
測定したものである。

80 Hzに於て 500 Hzに於て

ゴムシート	0.0049	0.0049
エポキシ系樹脂	0.012	0.010
本考案積層被膜	0.064	0.09

上記の表に見られるように本考案積層被膜を形  
成すると損失係数が0.1近くになり、制振材とし  
ての効果が他の制振材と比較して格別に顕著であ  
る。

第3図はゴムシートを制振材に使用した場合、

第4図はエポキシ系樹脂を制振材に使用した場  
合、第5図は本考案積層被膜を制振材に使用した  
場合の各振動特性図で、第5図では第3図、第4  
図に比較して周波数特性に於て鋭度の小さいもの  
となつている。

実施例ではヘッドシエル3の裏面に積層被膜を  
塗布しているが、表面又は両面に塗布してもよい。

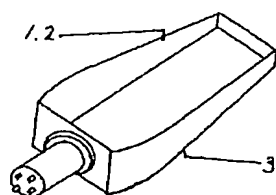
本考案は以上に述べたように、ピックアップの  
ヘッドシエル裏面に損失係数大なる塗膜層1と、  
その上面にヤング率の高い塗膜層2の積層被膜を  
形成すると云う巧妙な構造で振動を抑制するもの  
で、実用効果大なる考案である。

## 図面の簡単な説明

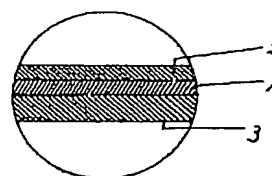
第1図は本考案のヘッドシエル外觀図、第2図  
は要部断面図、第3図、第4図、第5図は振動特  
性図。

1、2は塗膜層、3はヘッドシエル。

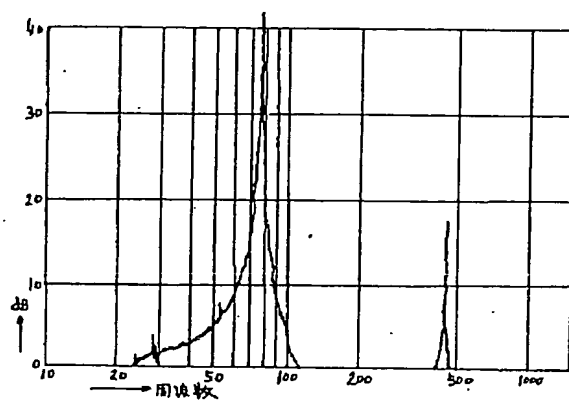
第 1 図



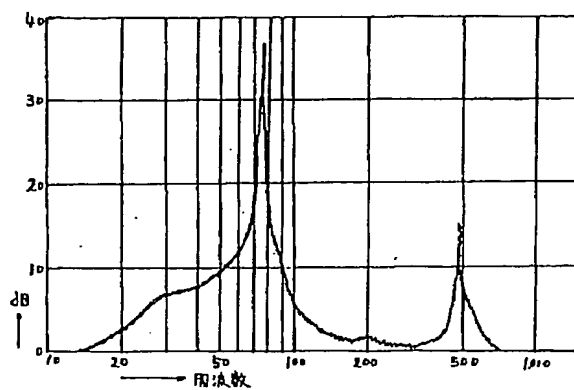
第 2 図



第 3 図



第 4 図



第 5 図

